

歴史を紡ぐ「方言」は、地元の財産。 岐阜の個性を発信するツールとなる。

国語教育では長い間、方言をなくして共通語を使うべきという風潮がありました。しかし、今は地域が個性を持って発信できる時代。方言はその地域の人間としての個性です。岐阜県でがんばろうと思っている人たちにとって、岐阜県方言は有用なツールになります。方言という言葉の価値を知り、使うことが岐阜県民としての誇りに繋がっていくのです。

陳さん、それは
“ものもらい”の
ことですよ

山田先生、
“メンボ”って
何ですか？

石黒さん、
岐阜県ではあんまり
聞かんけどね。
関西の方やない？

それなら先生、
“メバチコ”も
岐阜県の方
言ですか？



中国・内モンゴル自治区出身

岐阜県各務原市出身

大学院教育学研究科2年
陳 蘇布道 さん

教育学部国語教育講座4年
石黒 景子 さん

岐阜大学教育学部国語教育講座(日本語学・方言学)
山田 敏弘 シニア教授

※シニア教授…岐阜大学の教育職員個人評価において、高い評価を受けた者に付与される称号

他地域との言葉の違いを知ることによって
自己のアイデンティティを確認する。



私は日本語の文法と、岐阜県の方言を専門に研究しています。方言研究を始めたきっかけは、私が生まれた岐阜県と、最初に赴任した隣の富山県とで言葉もアクセントも全然違うことに面白さを感じたからです。岐阜に戻った平成14年から本格的に研究を開始。方言を「言語」として捉え、文法的特点を中心に調査・研究をしてきました。各地域の方言集や市町村史から地道に方言を拾い集めて一覧にし、語釈や用例を付けたりして『岐阜県方言辞典』を作成中です。

また、学生と一緒に方言調査に出かけて様々な年齢層の方に「これは何と言いますか？」と聞いてまわったりもしています。私が担当する全学共通教



育科目の方言にまつわる講座では、よく学生へもアンケート調査を行っています。例えば、チーム分けするときに「グーとパー」「グーとチョキ」のどちらを使うか、同じ「グーとチョキ」でも「グッチー」のように省略する地域があるなど、方言がなくなってきたりしている時代でも他県で違っていることがわかります。こうしたことを楽しんでやっていると、学生も面白がって進んで方言を調べてきてくれます。他県の学生との会話を通じて、自分の方言の特徴を知ることが生まれた土地に興味関心を抱かせるきっかけにもなります。地域人としてのアイデンティティを言葉から獲得していくこと

を、授業では図っています。
多様な言語があるから、
多様な発想が生まれる。

岐阜の方言に「行かあず」という言葉があります。「行かない」という意味にとりがちですが、「ず」は古い言葉の「(行か)むとす」からきている言葉ですから、意味は「行こうとする」。方言には古い都の言葉や言い方が残っています。地理的な分布を知ることや方言の一つの特徴ですが、同時に歴史を知ることでも方言の大きな価値なのです。さきほど述べた『岐阜県方言辞典』は、1〜3巻の『語彙編』、4巻の『オノマトベ編』が完成し、5巻は『文法編』を予定しています。図書館に置いてありますから、商売や岐阜のPR、町おこしなど気軽に活

用してください。ただ見ていただくだけでもかまいません。岐阜には、こんなに歴史ある言葉が豊富にあるのだと知っていただけるでしょう。

今、世界の言語は約3000ありますが、毎年1〜2言語のペースで消失しています。このままいくと最後は全部、英語になってしまふ。方言も同じ。共通語で事足りるけれど、やはり方言は大切です。それは、身近な人と話す言葉は方言ですし、気持ちも伝わりやすいからです。

岐阜で生まれ育った人間の一人として、岐阜県にある言葉の財産を大切に守りつつ、「岐阜人」としての誇りを持てるように、「方言のよさ」そして「言葉の大切さ」を話していくことが今後の使命だと思っています。

岐阜弁講座

美濃編

【ヤエル】
母「栗きんとん、買って来たよ」
娘「さっき、おばあちゃんも買って来たって」
母「ヤエてまったね」

意味：重複する
解説：「八重る」。江戸時代の雑俳にも「出して来る火桶・お気の短い用が八重る」とある。

【モーヤイ】
子どもたちにオモチャを渡して、
「ひとつぎしやで(ひとつだけだから)、モーヤイしやー」

意味：共同
解説：農村の共同作業「もやい(催合)」から。

飛騨編

【ハム】
「ちゃんと隣の人にはハムんやよ」
意味：お辞儀をする
解説：飛騨から東濃に分布する。「這う」が語源か。「礼を言う」との意味も下呂市に見られる。

【ウタテー】
「掃除してもらって、ウタテーなー」
意味：ありがたい
解説：平安時代から不快な感情を表す言葉として用いられてきた。相手を思いやりの不快な思いが転じて謝意となった。



子どもたちに岐阜県方言の面白さを伝えるために、山田シニア教授が作った「使ってみたい美濃と飛騨のちょっといいことば」のクリアファイル。講演先などで配布し、岐阜県の方言を広めている。